

掲載文の訂正とお詫び（正誤表）

本誌に掲載しました寄稿文に誤りがございました。

謹んでお詫び申し上げますとともに、下記のとおり訂正させていただきます。

【訂正箇所】42 ページ 山本 勉 氏（大 10）の訂正後寄稿文

1958 年、経済学部に入學、陵水会館の北にあった愚聖寮の西寮下九号室に入った。翌年、京都の教育を受け素晴らしい感性を持った本田貞彦さん・森下功さんが入寮して来て、その後学生自治会で共に活動することになった。彼らに勧められ一年先に学生自治会執行部に入り、シュプレヒコール；『日米安保改定反対！国会解散！岸を倒せ！』を叫び、教授らと共に彦根市内デモ、国会前デモの60年安保闘争に参加した。

安保闘争後は、学生生活基盤の向上に取り組んだ。当時、『価格破壊』はなく、講義用の書籍や文房具など定価通りで購入。（ダイエーの東証一部への株式上場は 1972 年）

学生自治会の定期大会で、学生会館にあった私営の販売店の学生経営化要求を決議。大学に申し入れ。社会政策論の有田正三教授の助言もあり、生協結成に取り組む。全国大学生協連関西支部が京大生協内にあり、定款作成・共同仕入など、援助を受けに通い、奈良女子大学学生自治会も取組んでいて、その場でメッセンに出会えるのも楽しみだった。

定款作成の助言を得るため、夏休み中に、経済法の小島孝助教授を京都、民法の西川達雄教授を近江八幡、商法・協同組合法の村橋時郎教授を大学構内、各ご自宅を訪問。秋には、設立のための実務に着手。滋賀県庁へ知事の生協設立認可申請・大津地方法務局彦根支局へ生協法人登記申請・たばこ小売販売許可申請等『学生起業』であった。

名称について、滋賀大学生協では教育学部に失礼、滋賀大学経済学部生協では経済短大部学生の仲間に失礼など配慮し、耳慣れないが「滋賀大学彦根地区生活協同組合」とし、現在に引き継がれている。初年度の理事は、本田(3 回生)、稲邑・上山・春日・鎌田・安田(2 回生)、理事長を山本(4 回生)が務めた。『より良き生活と平和の為に』が生協のスローガンである。経済学を学び始めた若者は、〈コモン〉を感知したのだろうか。